

議員提出議案第4号

教職員定数改善計画の策定・実施と教育予算拡充を求める意見書

標記の議案を次のとおり、桑名市議会会議規則第13条第1項の規定により提出します。

令和4年9月29日 提出

提出者	桑名市議会議員	松田正美
賛成者	同	南澤幸美
	同	市野善隆
	同	佐藤肇
	同	森英一
	同	石田正子
	同	伊藤研司

教職員定数改善計画の策定・実施と教育予算拡充を求める意見書

2021年4月、国の学級編制の標準が40年ぶりに改善され、小学校35人学級が段階的に実現することとなったにもかかわらず、2022年度の教職員定数については、基礎定数化に伴う教職員配置の見直し等により、教職員の自然減を上回る定数の措置には至っていない。また、中学校の学級編成の標準や高等学校等の教職員定数の標準の改善についても現時点においては示されていない。

日本の1クラス当たりの児童生徒数は、2021年 経済協力開発機構（OECD）の公表値で、小学校27人（OECD加盟国平均が21人）、中学校32人（同23人）と、どちらもOECD加盟国の平均的水準には到底及んでいない状況であり、小学校のみの改善に留めることは合理的でないと考える。

このような中、桑名市においても、特別支援学級籍の児童生徒が通常の学級で授業を受ける場合、35人以上となる学級も多く、40人を超える過密な状態で学習活動をせざるを得ない状況があるとともに、保健室に通う児童生徒や不登校になりがちな児童生徒も多く、心のケアも含め、一人ひとりに、よりきめ細かな対応が求められている。また、特別支援学級においては、障害の重さや種別が多様化しているにもかかわらず、種別等が混在している学級も多くあり、現在の定数で対応することが非常に難しい状況である。

一方で、感染症の影響による収入減や感染対策に係る保護者の負担増などが続き、教育のICT化に伴う通信費等の新たな保護者負担も生じている。

教職員が心身ともにゆとりを持って子どもたちと向き合い、日々の教育活動を創り出していくことは、子どもたち一人ひとりの「豊かな学び」の保障につながるものであり、教育予算を拡充し、教育条件整備を進めていくことは、ひいては、山積する教育課題の解決へとつながるものと考ええる。

以上のことから、子どもたちが安心・安全に学べるようにするためにも、全ての校種における学級編制と教職員定数の標準を改善すべく、教職員定数改善計画の策定・実施と教育予算の拡充を強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和4年9月29日

桑名市議会

衆議院議長様
参議院議長様
内閣総理大臣様
総務大臣様
財務大臣様
文部科学大臣様